

公益社団法人私立大学情報教育協会
平成24年度第1回情報教育研究委員会 議事記録

- I. 日 時：平成24年6月25日(月)午前10時～午前11時
II. 場 所：私学会館（アルカディア市ヶ谷）
III. 参加者：村井委員長、齋藤副委員長、井上委員、大谷委員、大原委員、渡辺美智子委員、渡辺淳委員(Net)
企業アドバイザー：バンダイナムコスタジオ、日立製作所
事務局：井端事務局長、森下主幹、野本（記）

IV. 検討事項

1. 平成24年度の情報教育委員会、各分科会の計画について

- ・ リテラシー分科会ではガイドラインをまとめ9月の戦略大会で分科会を予定、情報専門教育ではガイドラインと教育改善モデルをとりまとめ、分野別分科会では情報教育への取り組み実態について回答率が低い
ため追加調査を実施し、情報教育委員会では今年度中にフォーラムを実施、情報の大学入試問題についても検討すること
にしている。
- ・ ジャーナル「大学教育と情報」で高等学校での情報科教育の実情と課題を特集。

2. フォーラムについて

- ・ 24年度に1回実施、課題の洗い出しとして、25年度、26年で年間1回の実施ではどうか。まとめでは新しい価値観を創造する、創発的な社会をテーマとしてみたい。
- ・ 3回のフォーラムでは、情報教育のミッションなので、背景となること議論したい、状況の把握が遅れるのでリアルタイムで話をすると分かってくる。
- ・ フォーラム時間90分として、YouTubeに5分単位で登録をしたい。情報に向かい合ってもらうこと、ビデオプロダクションする。コーディネータから問いかけ2から5分パネリストが回答する流れ。
- ・ パネリストについては、情報を読み解く力、教育の立場から教養レベル、素材を持ち寄って組み立て主体的な学び Net で人材育成、モノづくりやシステムづくりなどの観点から考えられないか。科学技術や情報学研究から中立的な立場での意見もあってはどうか。
- ・ 中学高校レベルから大学で、ネット社会はスピード早い、過去の遺産が溜まっていく。現実とネット社会のつながりで、ネット社会の本質的な力とは何かを抽出できるとどうか。
- ・ 「ネット社会の本当の力を描く」をテーマにしてはどうか。
- ・ 世の中が変わってきているところを中学生高校生に理解してもらおう。国際的な理解、現在の危機感と将来の展望も考えてはどうか。
- ・ 方向性の話をするとしたら戦略説になってしまうデジタル Net 社会の本当の力を事例含めて浮き彫りにしてはどうか。
- ・ 学識者としては、ネット社会の現状と課題を知るとしては Google などのネットの現場を見せてはどうか。現場の使い方や問題点など説明する必要があるのではないか、企業現場の関係者などどうか。通常使っているようなネット関係や世界の視点を入れてはどうか。

3. パネリストの候補案

- ・ 5から6名で設定で、下記の候補案があげられた。
- ・ 委員会から、村井委員長、大原委員
- ・ 安西祐一郎氏（独立行政法人日本学術振興会理事長）
- ・ 伊藤譲一郎氏（MIT メディアラボ所長）または、ジムフォスター氏（慶應義塾大学教授）
- ・ 夏野剛氏（慶應義塾大学特別招聘教授）
- ・ 松原健二氏（ジンガジャパン株式会社CEO）

4. 日程について

- ・ 1月最終週で、29、31日あたりを候補としたい。

V. 次回の予定

- ・ 次回委員会日程はメールで調整することにした。
- ・ 第1回のシナリオの案を委員にお願いして検討することにした。